事業所名	野うさぎ（児童発達支援）	支援プログラム（東大阪市提出用）	作成日	7 年	3 月	1 日

法人（事業所）理念	人と人との繋がりを大切に、小さな『できた！』から大きな自信へ　『共に学び、共に成長・・・！』	
支援方針	放課後等デイサービスを卒業した先の未来も、今の笑顔が絶えないよう、今何を必要とし何を学ぶのかを考え、小さな『できた！』を積み重ねながら自信につなげていけるよう支援を目指します。1年を通して四季を実感しながら、衣食住に必要なスキルを身につけることが出来るよう課題設定やイベントを企画するなど個々のレベルにあった取り組みを提供。子ども同士がお互いを認め合うことや、自分自身のことを知りありのままを自分を受け入れ認めてあげることの大切さを学ぶ機会を提供。自ら考え決断し行動できるような言葉かけを大切に関わります。一人ひとりの未来が心豊かな生活が送れるよう、見守り・関わり・支え合う。できたことをともに喜びあう、自分の気持ちを素直に表現でき、相手の気持ちを知ること、感謝することの大切さが実感できるような関わりを意識し、共に学び共に成長・・・！	
営業時間	平日 11 時 30 分から 17 時 30 分まで 休日 10 00 16 00	送迎実施の有無　（あり）　なし

	支　援　内　容	
本人支援	健康・生活	●健康状態の維持・改善：定期的な心身の把握（毎日体温測定・気分把握）料理やお菓子作りなどを通した食育。●生活リズムや生活習慣・生活環境の形成：定期的かつ定時に通所。構造化を意識した部屋のレイアウト、掲示、支援。・SSTなどによる身体的、精神的、社会的訓練。●基本的生活スキルの獲得：ADLや身辺整理など身の回りを清潔にし、食事、衣類の着脱、排泄等の生活に必要な基本的技能を獲得できるように支援していきます。衣類の着脱（外遊びや活動の前に重点的に取り組む）身だしなみや整え方。他、必要に応じた支援。
	運動・感覚	●姿勢と運動・動作の向上：日常生活に必要な動作の基本となる姿勢保持や上肢・下肢の運動・動作の改善及び習得、筋力の維持・強化を図る。（体操やスポーツなどを通じた運動療育）●保有する感覚の総合的な活用：保有する視覚、聴覚、触覚の感覚を十分に活用出来るよう、遊びを通して支援する。（つかむ・支える・滑る等の要素」を取り入れた遊具遊びの提供。視覚や聴覚、触覚を刺激するようなゲームやクイズ）感覚過敏な子に配慮した環境設定など、５感２覚が統合されるよう運動遊びや個別での課題（認知・言語・社会性等）を提供する。
	認知・行動	●認知の発達と行動の習得：マッチング課題、構成課題、触覚遊び等様々な課題を通して、認知機能の発達を促す。●空間・時間、数等の概念形成の習得：発達段階に応じた数や時計、時間の課題を提示。具体物を使用する段階から徐々に抽象的な思考へ進めるよう支援する。●対象や外部環境の適切な認知と適切な行動の習得：スケジュールの視覚化、環境の構造化を取り入れ、誰にでもわかりやすい活動空間にすることで適切な行動を促す。タイムタイマーの設置。
	言語 コミュニケーション	●言語の形成と活用・言語の受容及び表出：具体的な事物や体験と言葉の意味を結びつける等により、体系的な言語の習得、自発的な発声を促す支援を行う。（文字・記号、絵カード、機器等の適切なコミュニケーション手段を選択・活用）●コミュニケーションの基礎的な能力の向上：話し言葉や各種の文字・記号等を用いて、相手の意図を理解したり、自分の考えを伝えたりするなど、言葉を受容し表現する支援を行う。（終わりの会で活動の振り返りと気持ちのプレゼンテーションをして言語表出・受容。自己紹介・他己紹介。）●コミュニケーション手段の選択と活用空間・時間、数等の概念形成の習得：各種の文字・記号・絵カード機器等のコミュニケーション手段を適切に選択、活用し、環境の理解と意思の伝達が円滑にできるように支援する。（障害の特性に応じた読み書き能力の向上など、指差し、身振り、サイン等を用いて、環境の理解と意思の伝達ができるよう、手話、音声、文字、触覚、平易な表現等による多様なコミュニケーションの活用。
	人間関係 社会性	●他者との関わり（人間関係）の形成：人との関係を意識し、身近な人と密接な関係性を築き、その信頼関係を基礎として、周囲の人と安定した関係を形成するための支援を行う。遊びを通して人の動やきを模倣することにより、社会性やの対人関係の芽生えを支援する。感覚機能を使った遊びや運動機能を働かせる遊びから、見立て遊びやつもり遊び、ごっこ遊び等の象徴遊びを通して、徐々に社会性の発達を支援する。また、周囲の子どもがいても無関心である一人遊びの状態から並行遊びを行い、大人が介入して行う連合的な遊び役割分担をしたりルールを守って遊ぶ協同遊びを通して徐々に社会性の発達を支援する。●自己の理解と行動の調整：大人を介して自分のできること、できないことなど、自分の行動の特性を理解するとともに気持ちや情動の調整ができるように支援する。●仲間づくりと集団への参加：集団に参加するための手順やルールを理解し、遊びや集団活動に参加出来るよう支援する。

家族支援	定期的に保護者会を開催。保護者同士の交流・勉強会・時短クッキング（家事軽減）・茶話会など、毎回目的を変え開催。また、お父さん会も開催することができ、交流の機会を持つことで当該児童や引いては、家族間での関わりに変化をもたらすことのできる会を目的として、今後も継続。	移行支援	相談支援員をはじめ、園や併用利用先との情報共有や支援のすり合わせなど、各関係機関と連携を図る。進路先や移行先への相談援助や情報共有。
地域支援・地域連携	身近なご近所様と友好な関係性。こども園・保育園や併用事業所との情報連携や調整、支援方法についての情報共有、相談援助。相談支援事業所との連携。事業所間交流。	職員の質の向上	月１回の社内全体会議を開催し、定期的に学び場を設定。また、朝礼・昼礼・夕礼の３回/日の申し送りのタイミングで情報共有を徹底。必要に応じては、時間を確保し勉強会を開催。外部の勉強会にも積極的に参加。
主な行事等	四季を実感できるイベントを開催。月１～２回は外出イベントを開催し、室内から屋外へ出る事で多くの刺激を受けながら、学びに変えることができるような外出先を選択。冬には、心ときめかせる『夜景を見に行こう！』企画など、普段は体験できないことを経験することで五感を養う。長期休み期間は、毎日イベントを企画。事業所内でリアルな室内映画館を設定し、模擬体験を重ね、実際に映画館に見に行くなどし『できた！』に結びつくような企画が、子どもたちや保護者様から大好評。クッキングなどで、成功体験を積み重ねるなど、企画一つ一つに必ず目的を持って取り組むことを心がけている。	